

セクシュアルマイノリティに向けた新しい婚礼衣装の提案

中野 日菜子

[指導教員: 武庫川女子大学准教授 坂口 建二郎]

キーワード: セクシュアルマイノリティ, ウェディング, 結婚式, 婚礼衣装

1. 研究の背景及び目的

近年、セクシュアルマイノリティに関する課題の一つの「同性婚」に対する理解が広まりつつある。現在、日本では、「同性婚」は法的に認められていないが、自治体でのパートナーシップ制度の導入や、同性間の結婚式を行える式場の増加が見られている。その一方で、結婚そのものではなく、式で着用する衣装に関しても、課題があるとわかった。

2019年、筆者は、2017年7月に産経WESTに掲載された、LGBT男性をモデルに起用したウェディングドレスショーの記事を読んだ¹⁾。一般的に結婚式では女性はドレス、男性はタキシードと思われがちで、それは同性婚にも言えることである。しかし、筆者はこの記事を読み、男性でもドレスを着たいと望む人がいることを知った。

このことをきっかけに、筆者は、一生の思い出となる結婚式を、性別に関係なく全ての人が平等に、当たり前、自らが望む形で自由に行えるよう、セクシュアルマイノリティに向けた新しいタイプの婚礼衣装を提案したいと考えた。

筆者は、将来、既存のドレスショップに、男女の不平等や性差を感じさせない衣装が並ぶことで、結婚式や撮影の際、誰もが堂々と着たい衣装を着られるようになるのではないかと考えている。そのため、本研究ではセクシュアルマイノリティに焦点を当て、婚礼衣装の提案および制作を行う。具体的には、生まれた時の性別や戸籍が男性で、スカートやワンピースなど、女性向けという印象のある衣服を着用したいと感じている人に向けて、「男性がウェディングドレスのような要素のある衣服を身に纏った時に、安心できるタキシード風の衣装」を提案することを目的とする。

2. セクシュアルマイノリティと本研究の対象者

現在、性のあり方(セクシュアリティ)には、「生物学的性」、「性自認」、「性的指向」、「性表現」の四つの要素が関係していると考えられており、その組み合わせは様々である²⁾。そのため、性のあり方は、単純に「男」と「女」に二分できるものではなく、多様性に富んでいる。セクシュアルマイノリティとは、日本語では「性的少数者」である。その反対はセクシュアルマジョリティ、つまり「性的多数者」で、性的指向が異性に向いている「異性愛者」、生物学的性と性自認が一致した「シスジェンダー」にあたる人と認識されている³⁾。そして、それらと異なる部分がある人がセクシュアルマイノリティとされている。しかし、セクシュアルマイノリティと一口に言っても、性のあり方には複数の要素が絡ん

でいるため、多くのセクシュアリティが含まれている。

また、セクシュアルマイノリティについて調査する中で、本研究の対象者は、トランスヴェスタイトというセクシュアリティの人々だと判明した。トランスヴェスタイトとは、生物学的性とは異なる性別の振る舞いをする事で精神的安定を得られる人とされている⁴⁾。

3. セクシュアルマイノリティの社会に対する意見の調査

NHKによるアンケート調査⁵⁾、国会議員との意見交換会⁶⁾など、計四つの調査や意見交換会を参考に、セクシュアルマイノリティが社会に対してどんな意見を持っているかを調査した。本研究にも関係する「結婚」に対しては、同性婚を認める法律の制定や、パートナーシップ制度に賛成する意見がある一方で、それらに反対する意見もあるとわかった。また、国がダイバーシティを推進する一方、まだまだセクシュアルマイノリティの人々は生きづらさを感じており、多様性が認められていない社会の現状が伺えた。そして、生きづらさを感じて現状を変えたいと望む人と、生きづらさを感じつつも現状に満足している人の存在が明らかになった。

4. 同性間の結婚式における問題点

同性間の結婚式に関する問題点は、主に四点ある。一点目は、全ての式場が同性間の結婚式を認めているわけではないため、式場がNGを出してしまうケースがあることである。二点目は、本研究のテーマでもある婚礼衣装のことである。男性同士なら双方がタキシード、女性同性なら双方がウェディングドレスと思われがちだが、身体は男性でもウェディングドレスを、身体は女性でもタキシードを着たいと望む人もいる。こういった事情に全ての式場が対応できるわけではないため、衣装決めでトラブルになる可能性もある。三点目は、結婚する二人と主賓の関係が良くない可能性、二人にとって意図せぬカミングアウトに繋がる可能性があることである。四点目は、周囲の目である。結婚する二人は、式当日や式までの様々な段階で、他のカップルとパッシングする可能性があり、不安を感じることもあるため、時間が被らないようにする、部屋を貸切るなどの配慮が必要とされる。

5. 婚礼衣装の現状

5-1 女性用衣装の現状

結婚式で女性が着用する衣装で真っ先に思い浮かぶのが、純白の「ウェディングドレス」である。ウェディングドレス

は、丈の長いスカートスタイルが主流だが、ミニ丈やパンツスタイルのウェディングドレスもある。また、洋装のウェディングドレスを着用する人の割合が多いだけで、「白無垢」や「色打掛」などの和装もある。昔は、「挙式は白無垢で臨み、ドレスはお色直しで着る」というスタイルが一般的だったが、ウェディングドレスが主役とも言えるのが現状である。

5-2 男性用衣装の現状

男性用の衣装にも、和装と洋装が存在する。和装の衣装は「紋付袴」、洋装の衣装は「モーニングコート」、「フロックコート」、「タキシード」、「テールコート」の四種類がある。洋装の場合、本来なら挙式の時間帯によって衣装が決まるが、タキシードは、昼夜を問わず着られることが増えている。また、タキシードはデザインが豊富で、相手の衣装とのコーディネートがしやすく、様々なタイプの会場との相性が良いため、一番人気で、今では最も一般的な衣装となっている。

6. オリジナルの婚礼衣装の提案

6-1 ディテール調査

オリジナルの婚礼衣装を提案するにあたって、既存の衣服からディテール調査を行い、デザインの参考になるかを検討した。この調査では、「マニッシュ感がない」、「性別に関わらず違和感なく着用できる」、「適度にフォーマル感がある」、「汎用性がある」の四点を基準にディテールを収集した。検討内容は、「タキシードドレス」、「アウターの襟」、「ボウカラー」、「リボンタイ」、「フリルシャツ」、「ジャボ」、「ボトムスのシルエット及び丈」、「配色」である。

6-2 デザイン及び制作

ディテール調査の結果をもとに、デザイン画を作成した。アウターの襟は、Vラインのノーカラーにし、裾はフィッシュテールのように前を短く、後ろを長くすることで、流れるようなラインを作り、ウェディングドレスのトレーンのようなデザインにした。シャツは、レギュラーカラーでリボンタイをつけることにした。ボトムは、アウターとのバランスを考えて、アンクル丈のテーパードパンツにし、すっきりと見えるようにした。また、カマーバンドも制作した。

7. 結論及び今後の課題

本研究では、戸籍上の男性に向けて性差のない新しいタイプの婚礼衣装の提案と制作を行った。制作では、筆者の理想に近い形で仕上げることができたが、今後の課題として取り組みたいことが三点見つかった。

一点目は、色に関することである。今回は白と黒の配色にしたが、黒の代わりにネイビーやシルバー、グレーを使用した衣装や、あえてオールホワイトの衣装も考えていきたいと感じた。白と黒の配色はフォーマル感が強く、メリハリが

あるが、他の色も婚礼衣装に使われることが多く、適度なフォーマル感があり、色が変わるだけで全く違った雰囲気演出することができると考えている。

二点目は、提案対象者の意見調査である。筆者は当初、対象に据えた人々の意見を調査し、衣装の実用性や必要性に関する客観的な意見を示したいと考えていた。しかし、繊細な課題に取り組んでおり、調査が困難だったため、制作及び提案が最終目標となってしまった。対象者の意見を調査することは、提案内容の改善に繋げるための大きな一歩になると思うため、衣装に対する対象者の意見を示す方法を考えていきたい。

三点目は、女性サイズで性差のない新しいタイプの婚礼衣装を提案することである。今回は男性サイズで提案したが、対象のトランスヴェスタイトに当てはまる人々は、戸籍上の女性でも存在する。そのため、男性の骨格に合わせたものにとどまるのではなく、性別に関係なくより多くの人の思いに対応できるようにしたいと感じた。そうすることで、筆者が目指す、「一生の思い出となる結婚式で、誰もが堂々と着たい衣装を着られる未来」に一歩近づくのではないだろうか。

以上の三点を今後の課題にしていきたい。



図1 制作品

注及び参考文献

- 1) 性的少数者がウェディングドレス姿披露…21日にブライダルショー、大阪、<https://www.sankei.com/smp/west/news/170714/wst1707140073-s1.html> (2019/11/2)
- 2) 性の4つのファクター、<https://lgbt-life.com/topics/9/> (2020/7/1)
- 3) セクシュアルマイノリティ・セクマイとは？【定義や種類は「LGBT」と違う？】、<https://jobrainbow.jp/magazine/whatissexualminority> (2020/7/1)
- 4) 教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック (ver.3)、<http://say-to-say.com/file/sb2015ver4.pdf> (2020/7/1)
- 5) LGBT当事者2600人の声から、<https://www.nhk.or.jp/d-navi/link/lgbt/> (2019/11/9)
- 6) 「LGBTの生きづらさを知って」当事者の学生たちが議員に伝えた人生と願い、<https://www.buzzfeed.com/jp/kazukiwatanabe/lgbt-and-ally-students-met-diet-members> (2019/11/11)